

## R3地域協働研究（ステージⅠ）

### R03-I-23「女性の社会増に向けた効果的な施策形成のための調査研究」

課題提案者 宮古市企画部企画課地域創生推進室

研究代表者 宮古短期大学部 松田淳

研究チーム員 中居裕美（宮古市企画部企画課地域創生推進室）  
大志田憲・谷藤真琴・平田哲兵（宮古短期大学部）

#### <要旨>

人口減少を抑制し、地方の活力を取り戻していくためには、人口の社会減に歯止めをかける必要がある。宮古市では、平成27年度から令和元年度まで第1期宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、取り組みを進めてきた。第1期の計画期間が終了し、評価及び検証を行ったところ、10代から20代に転出した女性の大部分が戻ってきていないことが判明した。

人口政策において母親候補人口となる若年女性の増加は重要な要素である。したがって、20代から30代の女性を引き寄せる要因、及び戻ってこない要因を分析し、他市町村の成功事例を調査しながら、宮古市における効果的な施策を研究する。

#### 1 研究の概要（背景・目的等）

宮古市の総人口は、昭和35年の81,093人をピークに徐々に減少し、令和3年1月末現在では50,490人まで減少している。国立社会保障・人口問題研究所の平成30年推計準拠においては、2040年の推計人口は37,439人と予測されており、人口減少は今後も続くものと見込まれる。

宮古市では、人口減少社会において持続可能なまちづくりを進めるため「第1期宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略（H27～R3年度）」を策定し、取り組みを進めてきたが、数値目標として掲げた「社会減数0人」の達成には至らなかった。これを受け、人口移動分析を行ったところ、転出超過は、高校生が就職及び進学するタイミングで最も大きくなっていること、また2010年から2015年の間の「年齢別の年齢階級別純移動数」において大きな男女差がみられ、転出した若年女性の多くが再度転入していないことが判明した。しかし、宮古市が行った評価及び検証において、若年女性が転出超過となっている要因の詳細な分析までには至っていない。

持続可能なまちづくりのためには、若年層の人口流出に歯止めをかける必要があり、特に、今回明らかとなった若年女性の転出超過を抑制するため、宮古市として有効な施策の実施が必要であると考ええる。

このことから、本研究により若年女性が転出超過になっている要因を明らかにし、それに基づく政策提言を行うことは重要である。

#### 2 研究の内容（方法・経過等）

本研究の主たる流れは、宮古市から転出した若年者に対するアンケート調査やインタビューにより情報を収集し、これを分析することで、転出した理由や、今後の宮古市との関係性などについてどのような意識を抱いているかを評価する。さらに、この分析結果をもとに、今後、宮古市の人口減少、特に若年女性の転出超過に歯止めをかける有効な政策を検討し、提言する。

##### （1）情報の収集・分析

宮古市出身でありながら県内外他市町村に転出して、現在

も市外に居住している若年者（比較のために20歳代、30歳代の男女）に、インターネットを介してアンケート調査に回答していただき、市外に転出した理由や、現在の生活状況、今後の居住地を含めた生活の方向性、宮古市との関係性などについて意識調査を行うことで、研究に必要な情報を収集する。その際、必要に応じてインタビューなどを行うことで、情報をさらに掘り下げる。

##### （2）情報の評価

収集・分析した情報をもとに、宮古市の人口減少、特に若年女性が転出超過に至った要因を抽出する。その際、若年男性の動態と比較することで、若年女性の動態との共通点や相違、さらには県内外他市町村の同様の調査・研究結果を参照することで、他市町村との間で共通した要因、あるいは宮古市に固有の要因がみられないかを探り、宮古市出身の若年女性の動態が有する意味を解明する。

##### （3）政策の検討・提言

情報の評価に基づき、これまでの宮古市の人口政策をはじめとした各種の政策について、何が欠けているのか、あるいは何が強みなのかを明確にすることで、今後、宮古市がどのような政策を採用すれば、有効な対応策となりうるのかを検討する。その際、県内外他市町村が講じている各種の政策を参照しつつ、宮古市に必要とされている政策を際立たせることで、最終的には宮古市の人口政策として、人口減、特に若年女性の転出抑制に対応した政策を提言する。

#### 3 これまで得られた研究の成果

##### （1）情報の収集としてアンケート調査を実施

宮古市出身者で県内外他市町村に転出して、現在も市外に居住している若年者の動向を把握するうえで、まず予備的なアンケートを実施した（図表1）。

- ① アンケート名称：岩手県宮古市の社会増減に関するアンケート調査
- ② 対象者：岩手県出身の方又は岩手県に関心のある方
- ③ 実施期間：令和4年2月中旬から3月10日（木）
- ④ 実施方法：専用のアンケートフォームより回答（Google

フォームを使用)

- ⑤ 質問項目：年齢、性別、出身地、現在の居住地、居住の理由、転出の理由、居住地の満足度、宮古市での居住意志の8項目

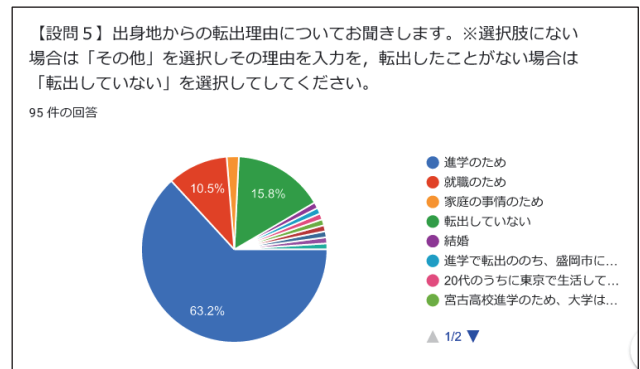
図表1 アンケートフォームの画面

## (2) 情報の評価としてのアンケートの分析

回答総数95件から以下のような結果が得られた(図表2)。

- ① 年齢：「20～29歳」70.5%、次いで「40～49歳」11.6%と続いた
- ② 性別：「男性」50.0%、「女性」47.9%、「回答したくない」2.1%
- ③ 出身地：「盛岡市」32.6%、「宮古市」31.6%、「宮古市・盛岡市以外の岩手県内」24.2%などと続いた
- ④ 現在の居住地：「盛岡市」16.8%、「東京都」16.8%、「東京都以外の関東6県」14.7%、「宮古市」13.7%、「東北・関東以外」12.6%、「仙台市」9.5%、「仙台市以外の東北6県内」9.5%などと続いた
- ⑤ 居住の理由：「進学」63.2%、「転出せず」15.8%、「就職」10.5%などと続いた
- ⑥ 転出の理由(複数回答可)：「出身地に希望する進学先・就職先がなかった」74.4%、「転出先に住みたかった」17.1%、「出身地の人間関係や価値観から離れたかった」11.0%、「家族から離れたかった」8.5%、「スキルアップをしたかった」8.5%などと続いた
- ⑦ 居住地の満足度：「どちらかという満足」42.1%、「満足」31.6%、「どちらかという不満」18.9%、「不満」2.2%と続いた
- ⑦-1 満足・どちらかという満足の理由(複数回答可)：「勉強面や仕事面で充実している」64.0%、「自分のライフスタイルに合っている」40.0%、「医療機関や交通機関充実している」37.3%、「文化や娯楽が充実している」34.7%、「自分の夢や理想が実現できる」28.0%、「アルバイトや仕事で希望する収入が得られる」26.7%などと続いた。

- ⑦-2 不満・どちらかという不満の理由(複数回答可)：「勉強面や仕事面で充実していない」40.0%、「アルバイトや仕事で希望する収入が得られない」40.0%、「文化や娯楽が充実していない」40.0%、「医療機関や交通機関が充実していない」40.0%、「自分のライフスタイルに合っていない」35.0%、「地域の人間関係や価値観が合っていない」35.0%などと続いた。
- ⑧ 宮古市での居住意志：「どちらかという希望しない」34.0%、「希望しない」30.9%、「どちらかという希望する」20.2%、「希望する」14.9%
- ⑧-1 希望・どちらかという希望の理由(複数回答可)：「自分のライフスタイルに合っている」42.4%、「家族と生活したい」42.4%、「人間関係や価値観が合っている」27.3%、「その他」18.2%、「結婚や子育て、介護など家庭の事情がある」15.2%、「仕事で希望する収入が得られる」12.1%などと続いた
- ⑧-2 希望しない・どちらかという希望しない理由(複数回答可)：「希望する仕事がない」47.5%、「自分のライフスタイルに合わない」37.7%、「自分の夢や理想が実現できない」32.8%、「医療機関や交通機関が充実していない」31.1%、「仕事で希望する収入が得られない」24.6%などと続いた。



図表2 回答の結果

## 4 今後の具体的な展開

今回のアンケート調査によって、現在の居住地や、居住・転居の理由などについて、おおむね把握することができた。ただし、こうした調査結果も、出身地や性別、現在の居住地などによって異なることが推測される。今回は、サンプルデータがやや少なかったこともあって、より確度の高いデータを得る必要があるため、今後は、宮古市出身者や若年女性に焦点を絞ったアンケート調査を拡充するとともに、さらにインタビュー調査も加えて、問題の核心を掘り下げることで、政策提言につながる現状の分析を進める予定である。